

る本田 美和子先生(国立病院機構東京医療センター)に「優しさを伝えるケア技術：ユマニチュードの実践」で講演して頂き、愛媛県外からの参加者もある盛況でした。パネルディスカッションとして「超高齢者、認知症患者への取り組み～安全によりそうために」のテーマにそって県内4施設からのパネリストに発表と討議していただきました。

一般演題は午前と午後の部に分かれ、52題を2会場の10ブロックで口演発表してもらい、活発な討論がされました。参加者は220名で、演題数、参加者数とも前年よりも3割程度増加しており、当学会の重要性が認識されてきていると感じました。最後に今回の学術集会開催にあたりご協力をいただきました皆様に心から感謝申し上げます。

第13回山口県支部学術集会

学術集会会長：山口リハビリテーション病院理事長 高橋幹治



会場風景

2014年11月15日(土)山口市の山口総合保健会館において第13回山口県支部学術集会を開催し、518名の参加がありました。本学術集会

のテーマを「地域におけるリハビリテーション医療の役割」とし、一般演題(口演)11題、(ポスター)12題、クリティカルパス展示6題の他、リハビリ機器展示、シンポジウム、特別講演を行いました。

シンポジウムでは、「これからの地域医療体制における急性期病院と回復期リハビリ・慢性期(療養型)病院の役割」というテーマで、行政及び山口県央部の各地域で急性期・回復期・慢性期(療養型)を担う7病院から計8名のシンポジストに発表をいただきました。

また、特別講演は日本リハビリテーション病院・施設協会の栗原正紀会長をお招きして、「地域包括ケアを支える多職種チーム医療の展開」という演題で地域医療の実情と課題、チーム医療のあり方、地域包括ケア時代のリハビリテーション、地域リハビリテーションによる地域包括ケアシステムの構築についてご講演をいただきました。

多数の参加をいただき、本学術集会を盛会のうちに無事終了することができました。ご指導とご協力をいただきました関係各位へ感謝申し上げ、開催の報告といたします。

第10回愛知県支部学術集会

学術集会会長：国立病院機構名古屋医療センター院長 直江知樹

2014年11月22日(土)に名古屋駅前のミッドランドホールにて第10回愛知県支部学術集会が開催されました。当日は秋日和の晴天にも恵まれ、362名という多数のご参加をいただきました。うち36名は岐阜県からの参加で、医療マネジメントに関する関心の高さを改めて認識致しました。今回は特別講演に「医療の質と安全を考える～両者を結びつけるための工夫～」と題して、名古屋大学医学部附属病院・長尾能雅教授に特別講演をお願いしました。医師がインシデントレポートに参加することの重要性や、医療の質改善の取り組みが業務のばらつきを減らし患者の安全性を高める可能性を述べられ、このためには品質管理のテクノロジーに加えて人材の育成が重要であることに触れられました。国立長寿医療研究センター・研修センター長・遠藤英俊先生に「認知症と地域包括ケア」と題してランチョンセミナーをお願いしました。地域で取り組まれている先進的な取り組みや、認知症をめぐる先端医療などが紹介されました。一般口演として、医療安全3題、地域連携3題、チーム医療3題の発表があり、質疑応答も活発でした。今回からポスター演題も行われ5題のパネルがロビーに並びました。休憩時間にパネル前で活発にディスカッションする姿が見られました。この集会在、職種間、病院間を超えた「医療の質改善」の取り組みに多少でも寄与できたのではないかと思います。参加の皆様へ感謝申し上げます。

第8回宮崎県支部学術集会

学術集会会長：JCHO 宮崎江南病院院長 白尾一定

2014年12月6日(土)好天の中、宮崎JA-AZMホールにて第8回日本医療マネジメント学会宮崎県支部学術集会が開催され、215名の参加がありました。本学術集会は、「広げよう職種間連携とチーム医療～医療人としての和の心～」をテーマにしました。特別講演として、熊本託麻台リハビリテーション病院の宮瀬秀一先生に、「院内医療メデイエーション」、ランチョンセミナーは、人吉医療センター病院長の木村正美先生に「南九州3県県境地域の医療連携」についてご講演していただきました。シンポジウムは、「NST活動における職種間連携」、「地域医療連携と医療マネジメント」について討論し、情報の共有と医療資源の有効活用が重要であることを再認識しました。

一般演題は27題、クリティカルパスは8題が発表されました。今後も本学術集会が、医療の質の向上に寄与し、お互いの交流、情報交換の場として積極的に活用されますことを期待してお礼の挨拶とさせていただきます。